



基本5文型

<SV> <SVC>

英文法入門③

- <SV>文型
 - 例
 - 句動詞
- <SVC>文型
 - 例
 - <be>ベース
 - うなぎ文:S=Cの原則
 - Cが形容詞の場合

<SV>文型



- 「存在」「変化」「進行」「継続」の意味であることが多い。
(割と例外がある・・・)
- 後ろに前置詞+名詞や副詞が続いて句動詞の意味をつくることが多い。

<SV>文型をとる動詞の例

- Will you **come**?
- My cat **is** on the roof.
- There **are** three solutions.
- I **go** to school.
- He has **changed**.
- The voting rate in the state has been **decreasing**.
- Her hard situation is still **continuing**.
- The project has **proceeded** well.
- My study is **going** well.
- You can **walk, run, cycle or fly**. Lol
- My uncle **fishes** every weekend.
- He **left** and she **remained**.
- Can I **stay** at your place?
- Can I **sleep** on your bed?
- Can I **wake** up later than you?



<SV>ベースの句動詞の例

- <SV> + for ~ 「~を求める」
 - look for
 - search for
 - apply for
- <SV> + on 「継続する」
 - go on
 - keep on
- <SV> + to ~ 「~へ行く、進む」
 - come to
 - go to
 - get to
- <SV> + by 「通り過ぎる」
 - pass by
 - come by
 - rub by
- <SV> + at ~ 「~を見る」
「~に達する」
「~に襲い掛かる」
 - look at
 - stare at
 - glance at
 - arrive at
 - come at
 - take at
 - get at
- <SV> + into ~ 「~に変わる」
「~に入る」
 - change into
 - turn into
 - break into

句動詞の意味を決めるの動詞よりも前置詞や副詞の性質です。
ここで全て覚えるよりも、前置詞・副詞の学習でイメージを掴んでから覚えよう。

<SVC>文型



- **S=C (例外なし)**
- Cに名詞が入るときは明確にS=C
- Cに形容詞が入るときはSと同じ冠詞と名詞が省略されていると考える
- 理解するときには**S=CをベースにV自体の意味を混ぜて**考える

<SVC>文型をとる動詞の例

- **Is** the coffee bitter?
- She **stayed** awake until 2.
- The system has **remained** down for a week.
- The movie **kept** running.
- Bob will **get** mad at Sally.
- This machine easily **gets** broken.
- I'm **feeling** really good.
- The issue **seems** hard to deal with.
- The tree will **turn** red soon.



<SVC>文型は<be>ベースの文型

➔beに書き換えても意味がとおる

- **Is** the coffee bitter?
- She **was** awake until 2.
- The system has **been** down for a week.
- The movie **was** running.
- Bob will **be** mad at Sally.
- This machine easily **is** broken.
- I'm **being** really good.
- The issue **is** hard to deal with.
- The tree will **be** red soon.

この<be>ベースの文の
構造的な意味を
そのまま引き継ぎ
それぞれの<SVC>の
動詞の意味を
付け足して理解するの
が正しい<SVC>の解釈
です。
極端言えば
「意味」は<SVC>の文型
が決めて
動詞が決めるのは
文のニュアンス。

<SVC>文型は<be>ベースの文型

- **Is** the coffee bitter?
コーヒー苦い？
- She **was** awake until 2.
2時まで起きてた。
- The system has **been** down for a week.
1週間ダウンしてる。
- The movie **was** running.
映画が上映中だった。
- Bob will **be** mad at Sally.
サリーにきっとキレる。
- This machine easily **is** broken.
簡単に壊れている。(変な文)
- I'm **being** really good.
超良い感じ。
- The issue **is** hard to deal with.
この問題は扱いにくい。
- The leaves will **be** red soon.
葉はすぐに赤くなるだろう。



- **Does** the coffee **taste** bitter?
コーヒー苦い味する？
- She **stayed** awake until 2.
2時まで起きたままだった。
- The system has **remained** down for a week.
1週間ダウンしたまま。
- The movie **kept** running.
映画は上映しっぱなしだった。
- Bob will **get** mad at Sally.
サリーにきっとキレる。
- This machine easily **gets** broken.
すぐ壊れる。
- I'm **feeling** really good.
超いい気分。
- The issue **seems** hard to deal with.
この問題は扱いにくそう。
- The leaves will **turn** red soon.
葉はすぐに赤く染まるだろう。



【うなぎ文】 S=Cの原則が崩れるとどうなるか

【日本語】

- A 「注文どうする？」
- B 「うに丼にしちゃおうかな」
- C 「何？じゃあ僕はウナギだ。」

A 「お金あるな君たち。」

【英語】

- A 「What are you going to eat?」
- B 「I'll have Uni-Don」
- C 「What? Then, I am eel.」

A 「huh? Were you an eel?」

[え、お前ウナギだったのか?]

英語の<SVC>におけるS=Cは厳密なルールです。日本語は世界的に見てもhigh contextな言語なので、あまり厳密に言わなくても含みを文脈から補ってお互いに理解しあうことができます。(大抵主語は省略されますし...。主張が下手だったり空気を読む文化があったりハッキリ物事を言うのが美德とされなかったり、日本らしい文化の性質は言語には反映されています。俳句などの芸術にもその傾向がみられますね。)一方英語はlow contextな言語なのでいちいち全部言うのが普通で、言っていないことはわかってもらえません。Sは絶対言うことになっているので、言わないと「誰が？」となります。もちろん英語でも省略されるものはありますが省略するのは省略していいルールの範囲内だけです。(これもイギリスは最初に憲法ができた国だったり、アメリカは訴訟大国だったり、ビジネスなどで主張が美德とされたりという文化と整合性がありますね。ちなみに英語よりもlow contextな言語として有名なのはドイツ語。あら哲学の国じゃないですか。)文脈でわかるでしょ、は通用しません。上の例ではCさんは「自分は生物としてウナギである。」と言っていることになってしまいます。まあ普通ありえないからネイティブは意味を組んでくれるでしょうが。。。ここではきちんとhave, eat, orderなど動詞を使ってeelに決めた旨を伝える必要があります。実際には「ell, please」でいいけど。

Cが形容詞の場合

She is beautiful. 「彼女は綺麗だ。」



She is (a) beautiful (girl).

「彼女」は「綺麗である」そのものではないのでは…？

と考える。

この補充がうまく機能する場合、
文は<SVC>として正しいといえる。

